

2024年度 自己評価・学校関係者評価報告書

2025年3月

学校法人亀ヶ谷学園

幼稚園型認定こども園・宮前幼稚園

① 園の教育目標

- ・わくわく生き活きと輝き創造的にあそべる子ども
 - ・わくわく人が好きになり、人に好かれ、思いやれる子ども
 - ・わくわく響関の言葉が言え、秩序が気持ち良いとかんじられる子ども
- わくわく響き合える豊かなところをもった子ども

② 本年度に定めた重点目標

幼保連携型認定こども園であることを踏まえ、以下の3つを重点目標として定めた。

- ・子どもたちの主体的なあそびや生活の実現
- ・園内研修を通して課題解決を図り、保育者の専門性を深める。
- ・公開保育を通して、園の保育をひらき、保育の質向上を目指していく。

③ 具体的評価項目の達成及び取り組み状況

項目	評価	取り組み状況
教育目標	A	園の教育目標については全ての職員が共感・理解し、日々の保育実践を通して実現できるよう努力して取り組んでいる。
保育計画	A	今年度より、マップ型週案の取り組みを始めた。子どもの興味・関心から計画を立案できるように配慮している。引き続き、子どもたちの興味・関心について写真を活用して対話の時間を設けたり、ウェブマッピングの方法を用いて遊びが豊かになるような環境を考えたり、子どもの姿をベースにしながら質の高い教育・保育の展開を目指している。
保育環境	A	自然豊かな環境を最大限活用した保育実践を目指している。 今年度の夏には園庭環境を中心にした公開保育を実施し、全国の保育者の方々とより良い自然環境のあり方について、考える機会をもつことができた。子どもの興味・関心が生まれる場としての環境の一層の充実を図っていく。
安全への配慮	A	日々の保育の中での気付きを大切に、ヒヤリ・ハット事例を集め、安全への配慮を習慣化していく。 リスクとハザードの考え方のもと、子どもが予測し対処することが難しい危険（ハザード）は0に、子どもが自分の力で乗り越えられるリスクのある環境の認識を使い分けながら、環境構成を継続していく。

チーム保育・同僚性	A	過去の年度に比べて、語り合いを通して保育を計画していくことを実践することができた。 引き続き、年齢・経験年数が異なる幅広い保育者集団の中で、それぞれが尊敬の念を持ちながら接することを大切にしていきたい。業務上の課題については、建設的な話し合いを通しての解決を目指し、「最適解」を導き出す営みを大切にしていく。
保育内容・方法	A	子どもたちの「探求」をテーマに、各歳児に応じた環境構成や保育の工夫をすることができた。これまでの積み重ねを生かしながら、より良い保育内容や方法を求めていきたい。
保護者とのかかわり	A	外部講師（コマ名人・歌遊び作家など）をお呼びし、保護者も子どもと一緒に楽しめるプログラムを多く実施することができた。 ポートフォリオや写真等、可視化された記録を用いながら子どもの育ちを伝える取り組みが一定の評価を得ている。外部研修の講師を務めることも多数ある。子どもを真ん中に、園と保護者が手を取り合っって子どもの育ちにかかわる関係性を築いていきたい。
専門性の向上	A	計画的に研修に参加し、多くの職員が必要とされている研修要件（マネジメント分野 15 時間など）を修了することができた。 また、今年度は自園での公開保育を 2 回実施し、自園の保育の良さや課題を見つめる機会を持つことができたため、そこでの知見を生かしてブラッシュアップしていきたい。
食育	B	昨年度から、子どもたちの食育活動も盛んになってきた。今後、自分たちで栽培した食材を使って調理など、食育活動を充実させていきたい。
子育て支援	B	外部講師を招いての親子コンサートなど、園として初めての取り組みを行えた。今後もさまざまな形での子育て支援に取り組んでいきたい。
地域との連携	B	認定こども園へ移行したことにより、これまで以上に川崎市や宮前区といった行政とのつながりが深まった。 子どもたちが地域に出かけたり、地域資源を生かしたりした活動が十分に行えなかった。

④ 総合的な評価結果

A	今年度は、年度内に公開保育を 2 度実施するなど、保育をひらき、他園の保育者の方々と対話をする機会を多く持つことができた。自園で当たり前になっている保育を見つめ直したり、改めて良さを実感することができたため、今後も保育の質向上を目指して取り組みを継続していく。
---	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価

A：十分達成されている

B：達成されている

C：取り組まれているが、成果が不十分でない

D：取り組みが不十分である

⑤ 今後取り組むべき課題

保育環境	令和8年度には、宮前幼稚園と宮前おひさまこども園の統合が控えている。 令和7年度をかけて、職員間で対話をしながら、子どもにとってよりよい環境での保育を実現できるように準備を進めていきたい。
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------

⑥ 施設関係者評価（自己評価の結果を踏まえて実施）

<p>1. 環境について（園庭、園舎、ファーム）</p> <p>《園庭》</p> <ul style="list-style-type: none">・アプローチが魅力的。子どもたちが居る風景も素敵だけど、子どもたちがいない時も素敵だと感じる。子どもたちも、そのような環境に身をおける経験ができて良かった。・園内の絵画が変わったり、オブジェが変わったり、保護者もワクワクしましたし、子どもとの会話のきっかけにもなっていることが嬉しかった。・園内でも体を動かしてあそべる場所が充実しているため、雨の日でも運動不足にならずに帰ってくるのが良かった。・3年間で自分のやりたいことや好きなことを選んで遊べるようになった子どもの姿を見てとても成長を感じる。・今の時代、裸足で遊ぶことができる園が少ないのでとても有り難かった。 <p>2. 保育内容について</p> <ul style="list-style-type: none">・造形などのクラスの時間だけでなく、素材コーナーなど自由にいつでも遊べる環境が整っていることが魅力的。そのおかげで、子どもたちの創作意欲が高まった。家庭でも同じように楽しむ姿が見られるようになった。・保育と家庭とのつながりある保育が魅力的だと感じる。・お米の活動は、なかなかできることではないので、貴重な経験をさせてもらえたと感じる。家庭でもお茶碗のお米を残さず食べたり、誰かの手で育てられ食べられることに感謝したり、意識が変わった。・誕生日会で、家族以外の方や友だちにおめでとうと言われる経験はとても嬉しい。小学校ではそのような機会がなく友だちの誕生日を知らないし、貴重な経験だと感じている。・サンマの食育もとてもいい経験になり、家でもお箸に挑戦したり、魚を食べる意欲にも繋がったりしている。・チャレンジ活動は、はじめは「どうか…」と思ったが、今では子どもの成長を感じられるものだと思っている。せっかくなら、運動会の他にもクラスみんなで何かに取り組める機会があっても素敵だと思う。(3学期) 劇あそび会を知っているので、見たい気持ちはあるがチャレンジ活動も自信に繋がっていると感じる。

- ・モルモットの飼育も、子どもの心に残っているようで良い経験だと感じている。

3. 職員について

- ・担任以外の先生の名前を教えてくれたり、話してくれたり、多くの子をよく見ている安心感がある。

- ・フレンドリーな雰囲気が良い。

- ・説明会の時に、園長先生が子どもの真ん中に居る雰囲気が魅力的だと感じた。

普段の保育でも「子どもたちの中に先生たちの存在がある」と感じられる。

4. 今後に向けて

- ・行事の代休などについて、多くの親御さんは「少しでも多く子どもたちを園に行かせてあげたい」という思いをもっていると思う。上の子が小学生にあがると尚更、お休みが合わなくなっていく。

- ・役員のシステムは今後難しくなるかもしれないけれど、子育てに孤独を感じる方々は「宮前においで！」と言いたくなる。保護者との繋がりも良いと感じている。

- ・参観の回数がもう少し多くても良いのではないかと思う。(コロナの前は好きなだけ来られた) 親の近くで終わってしまう子もいるので、回数があると様々な様子が見られるようになるかもしれない。保育参加よりは、参観の方が気軽に来られる感じで良いと思う。普段の姿を見たい。

- ・くまさん文庫の有志が少なくなっている。貸出が火曜日、木曜日と決められているのでお仕事している方は厳しい。